

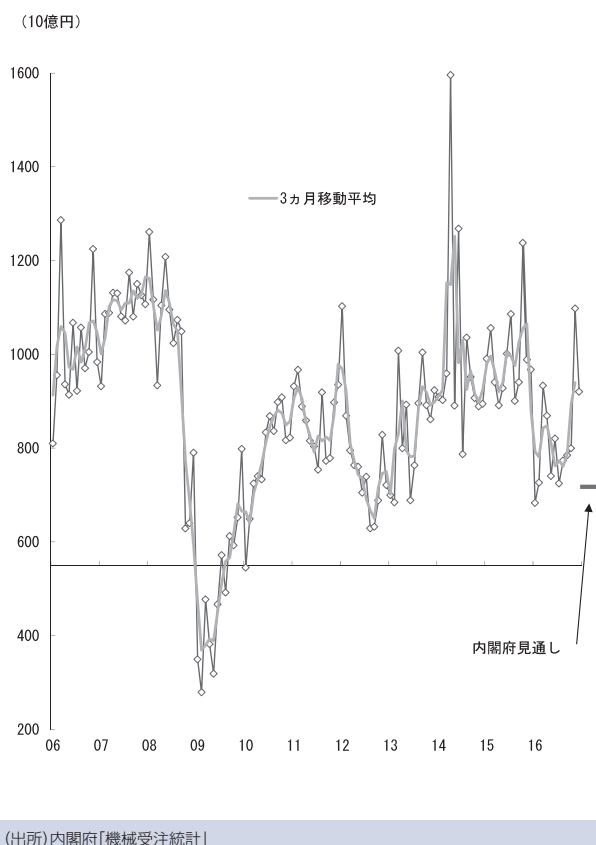
今、いちばん気になる統計は？

海外からの機械受注

2016年10-12月期の機械受注外需は前期比+23.4%と急増しました。この値は、日本の機械メーカーが海外から受注した金額を示します。急増の背景には、昨年夏場以降、世界的な製造業の景況感やITサイクルが持ち直したことなどが挙げられます。輸出統計で見ても、電気機器の増加に加え、緩やかながらも一般機械輸出が増加し、10-12月期の輸出は好調に推移しました。

ただし、こうした改善が続くかは微妙なところです。機械受注統計では、次期の受注見通しを機械メーカーに調査しています。そこから算出された1-3月期の内閣府見通しは前期比▲19.4%と、10-12月期の増加をほぼ打ち消す減少となっています。あくまでも見通しであり、世界的に製造業景況感が改善する中で、海外からの機械受注が大きく減少するというのもおかしな話です。一方で、トランプ米大統領の就任後、世界貿易における先行き不透明感が強まっており、企業の警戒感が現れている可能性も否定できません。世界経済が回復を維持できるのか、保護貿易への懸念がそれを邪魔するのか、今後の動きが注目されます。（経済調査部 柵山 順子）

資料 機械受注(外需・季節調整値)



編集後記

世界中がトランプ大統領に振り回されている。正式就任後、「やる」と言っていたことを矢継ぎ早に大統領令という形で実行に移し、「政治家が選挙公約を実行するのは当然じゃないか」と喝采を送る者がいる一方で相変わらず抗議の声も大きい。こうした動きをみるのは子供の頃からアメリカは色々な意味で世界一の大国で、随所で「さすがアメリカ」、「やっぱりアメリカだね」と感じながら育ち、仕事をしてきた身としては戸惑うばかりだ。

そんな公約を次々実行に移しているトランプ大統領だが予算に関しては、現段階(2月上旬)では具体的なものは出てきていない。資本市場が期待している大幅減税、大規模インフラ投資は議会との調整が不可欠であり、今の混乱を見ると早期の具体化、議会通過をどこまで期待していいのかわからない。加えて「AMERICA FIRST」という政策軸に対して貿易問題等に具体的にどういう形で対応してくるのかもよく見えない。

今世界に広がる熱狂と抗議の声、戸惑いはやはり時代が大きく変わろうとしている証なのだろうか。最近の国境を意識した動き、統合から分断に向う動きはリーマンショック後の景気低迷による一時的なものという意見もあるがそれは違うということだろう。育ちつつある時代が反グローバルという言葉で表される世界なのであれば日本はどう対応していけばいいのだろうか。(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。